

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間:2010年12月上旬から12月下旬までの旬別  
対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域  
対象漁業:さんま棒受網漁業  
対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量少なく、終漁となる。

(2) 漁場: 漁場は形成されない。

#### 2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、12月上旬は低位水準であり、終漁となる。

(2) 漁場: 12月上旬は、南部に漁場が形成される。

#### 3) 常磐海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、12月上旬～下旬は低位水準で推移する。

(2) 漁場: 12月上旬は、常磐北部～南部に漁場ができる。12月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

### 2. 予測の概要

海 域		12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量			
	動向			
	漁 場			
三陸海域	来遊量	→		
	動向	低位水準		
	漁 場	南部		
常磐海域	来遊量	↘	→	→
	動向	低位減少	低位水準	低位水準
	漁 場	北部～南部	南部	南部

### 3. 漁況の経過概要

(11月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、11月上旬をやや上回ったが、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばに来遊量はやや増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、襟裳岬沖であった。

襟裳岬南東 50 海里～110 海里付近(表面水温 10～12℃)。ほぼ連日、大型船が数隻～40 隻程度操業。20 日夜は小型船も操業。数トン～95トン漁獲。

また、道東海域よりも沖側で、三陸海域よりはるか東沖の、落石南南東 140～210 海里付近(表面水温 8～10℃)では、大型船が 1～30 隻程度操業。数トン～125トン漁獲。

##### (3) 魚体

襟裳岬沖は、29～30cm モードの大型魚主体。期後半には、22～25cm モードの小型魚中型魚の割合も多くなってきた。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、11月上旬をやや上回ったものの、前年並みの低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に減少したが、期後半にやや高くなった。

##### (2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～金華山沖であった。

宮古北東 15 海里～気仙沼東南東沖の 30 海里～金華山東 80～130 海里付近(表面水温 13～17℃)。連日、大型船が数隻～45 隻程度と、小型船が多数操業。数トン～60トン程度漁獲。

##### (3) 魚体

29～30cm モードの大型魚主体。